LPW-007AL SCHRECK GUSTAV
AIR. LAND BATTLE ARMS

ガレリア軍の運用するAIR LAND BATTLE WEAPONがシュレイクグスタフである。航空機形態により敵の陣地深く侵入し、背後より相手の虚を突く戦術から生まれた兵器である。

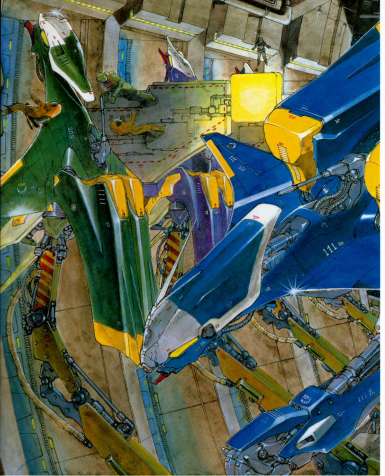




静止軌道上に浮かぶセレーネ軍宇宙空母のカタパルトの一枚。ゾードム軍からアインハンダーと怖れられる戦術戦闘機が並んでいる。まさに発艦しようとしている手前の機体が、最も量産されたエンディミオンFRSMk II。シリーズを特徴づける不釣り合いに大きな特殊工作マニピュレーターが、機体底部より伸びているのが観察できる。

TEXT by Kenichi Iwao

EINHÄNDER



↑「アインハンダー」
23世紀。人類は、過酷な月面都市セレーネと地球の残り少ない非汚染地帯を領土とするゾードム帝国との間で、激しい戦闘が繰り広げられていた。その残り少ない生活圏を巡って、人類の醜い争いは止むことなく続いていた。AD2245年。セレーネは、地球奪還の為に定期的に大気圏内突入可能な戦闘マシーン（背部に可変式反重力ユニット2機搭載、いかなる武器をも装着可能なマニピュレーターを下部に待つ）エンディミオンを降下させた。その一本腕からアインハンダーとゾードム帝国から怖れられた。エンディミオンの降下作戦の真の目的とは、果たして………。
1997年スクウェアより発表された横スクロールシューティングゲーム「アインハンダー」。

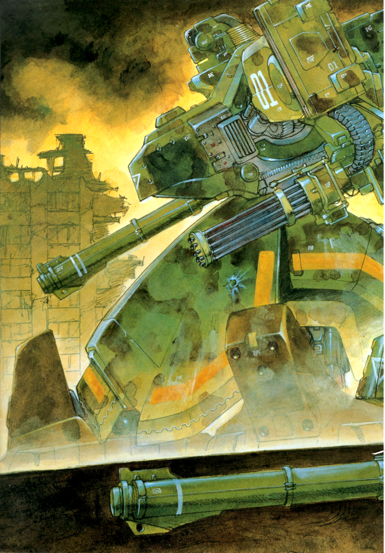




ゾードム軍の装甲列車を単機追撃中のエンディミオンの目前で、突然列車のコンテナが開き、中から高速対空戦車ガルネーレが躍り出てきた。これから夜の砂漠で繰り広げられるであろう、死闘を想像させる一枚である。

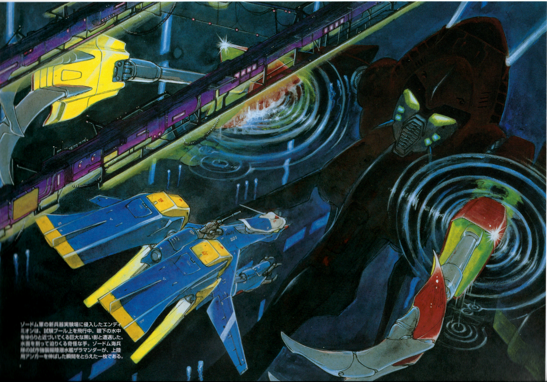


アインハンダー（エンディミオン）迎撃のため、作戦行動中のゾードム帝国陸軍局地戦用人型歩行戦車デューラー。大戦末期に開発され、重装甲、重武装、それでいて機動性も高く、開発当初は完全なる兵器とさえ呼ばれたが、生産・整備コストが抑えられず、十数輌が製造されるにとどまった幻の傑作戦車である。

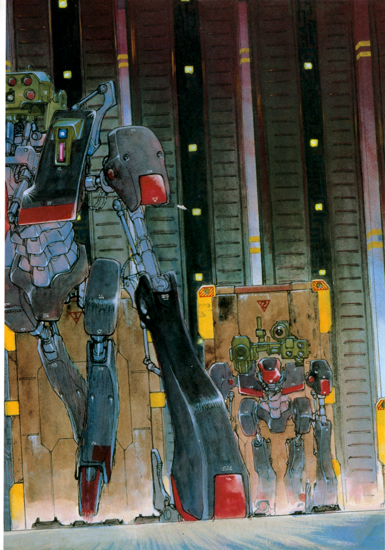




帝都に侵入したアインハンダー（エンディミオン）に手を焼いたゾードム治安警察が、市壁間際で脱出を阻止するため、軍払い下げの切り札、無人歩行戦車ドラッヘを発車させようとしている。ドラッヘは、強力だが諸刃の剣となり得る欠陥兵器であるため、発車を見守る警官にも緊張が走っているのがうかがえる。



ゾードム軍の新兵器実験場に侵入したエンディミオンは、試験プール上を飛行中、眼下の水中をゆらりと近づいてくる巨大な黒い影と遭遇した。水面を割って迫りくる奇怪な手。ゾードム海兵隊の試作強襲揚陸潜水艦ザラマンダーが、上陸用アンカーを伸ばした瞬間をとらえた一枚である。





走行中のゾードム帝国陸軍汎用人型歩行戦車ゲシュテル。深海作業用パワーフレイムのノウハウを転用して開発された帝国軍初の人型車輌で、開発には8年もの歳月が費やされている。手前の車体は格闘兵装を主としたA型で、高い近接戦闘力と機動力を誇り、主に陸軍特殊工作部隊に優先的に配備されたタイプである。


W 8
8 W



ゾードム軍補給基地の車庫内の一枚。並んでいるのは、旧式の無人四脚装甲車ゲッコー。手前の車輌は対空機関砲を装備した標準的な砲塔だが、奥の車輌はレーザー砲を搭載した珍しいタイプの砲塔であり、おそらく試験車と思われる。さらにその奥には、特殊工作戦車グスタフの巨大なシルエットが見える。



強行偵察のため敵首都に降下したエンディミオンは、高速道路上空でゾードム治安警察の探査網にかかってしまった。追撃する装甲車を振り切ったのも束の間、機動装甲戦闘機グライフに待ち伏せされ、治安警察に完全に包囲されたエンディミオンは、やむなく応戦。ガンポットの30ミリ機関砲が火を吹いた。